

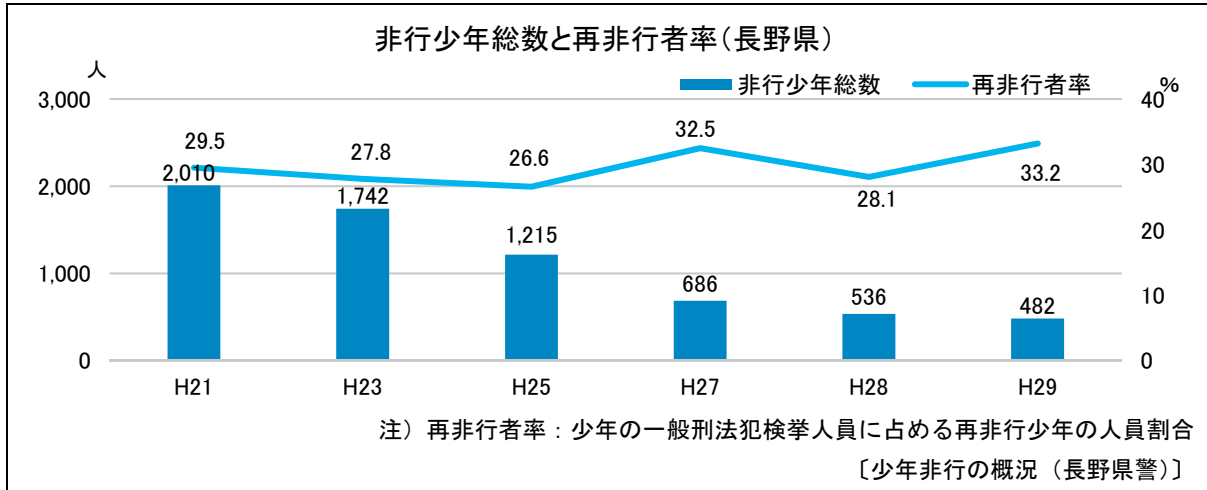
第7章 青少年の育成環境

～ インターネットの適正な利用が課題 ～

1 非行及び犯罪被害

非行少年数は減少傾向

○ 県内の非行少年の総数は減少傾向にありますが、再非行者率は横ばいの傾向です。



薬物乱用少年数に大きな変化なし

○ 全国的に薬物乱用少年数は減少傾向にありましたが、近年再び増加傾向が見られます。長野県では大きな変化はみられません。

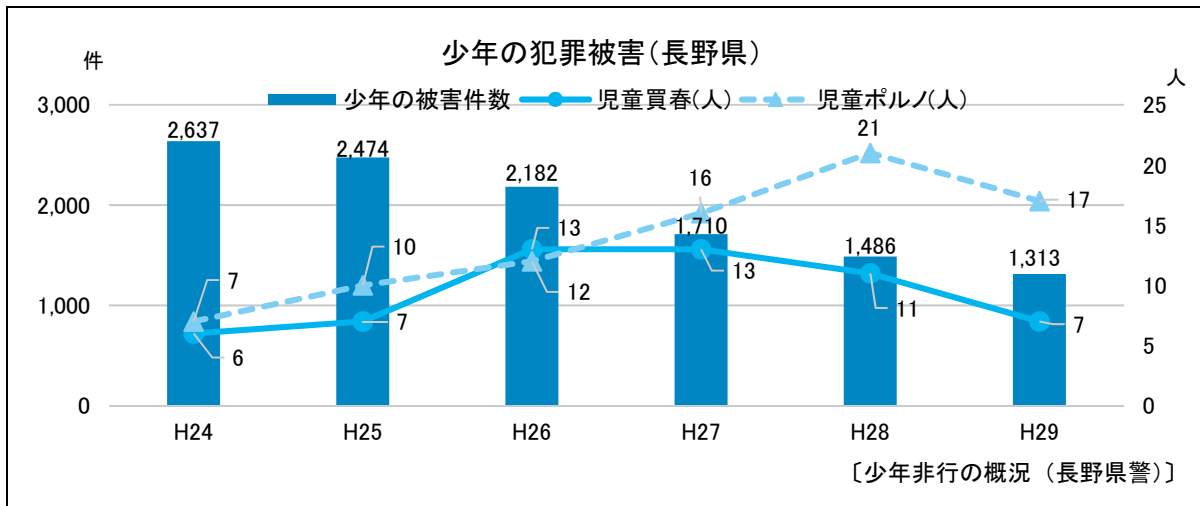
毒物及び劇物取締法、覚せい剤取締法、大麻取締法、麻薬等取締法で検挙された少年数

年	H24	H25	H26	H27	H28	H29
長野県 (人)	2	3	1	1	0	0
全国 (人)	320	227	193	285	373	412

[少年非行の概況 (長野県警)]

少年の犯罪被害は減少傾向だが、児童ポルノ被害は増加傾向

○ 県内の少年の犯罪被害の件数は減少傾向にありますが、児童ポルノの被害児童数が増加傾向にあります。

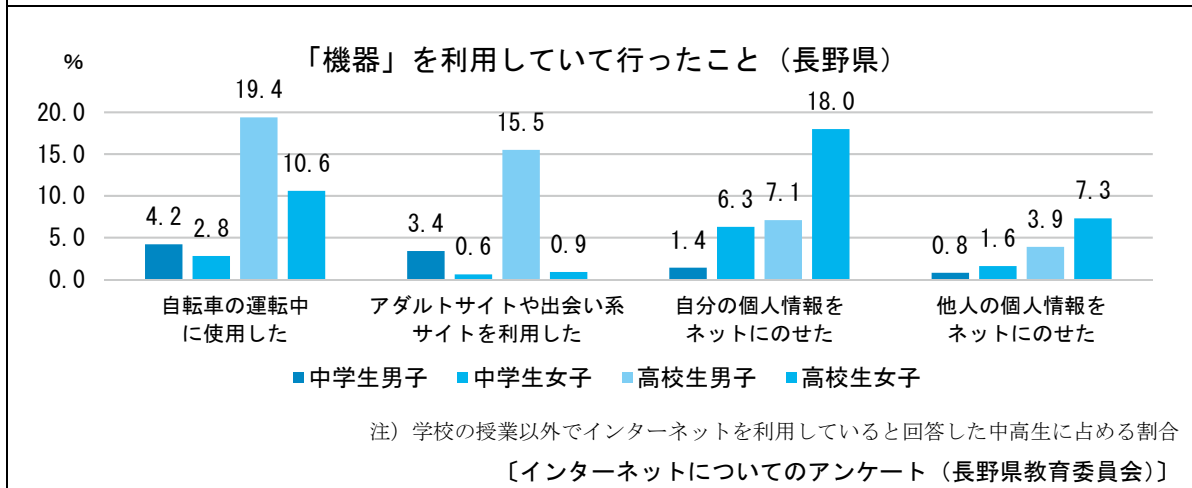
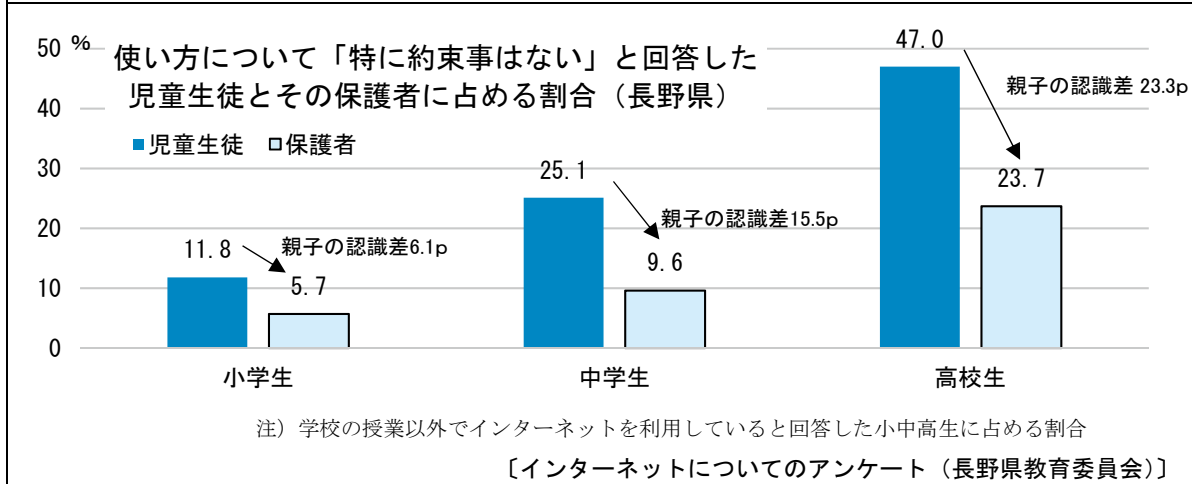
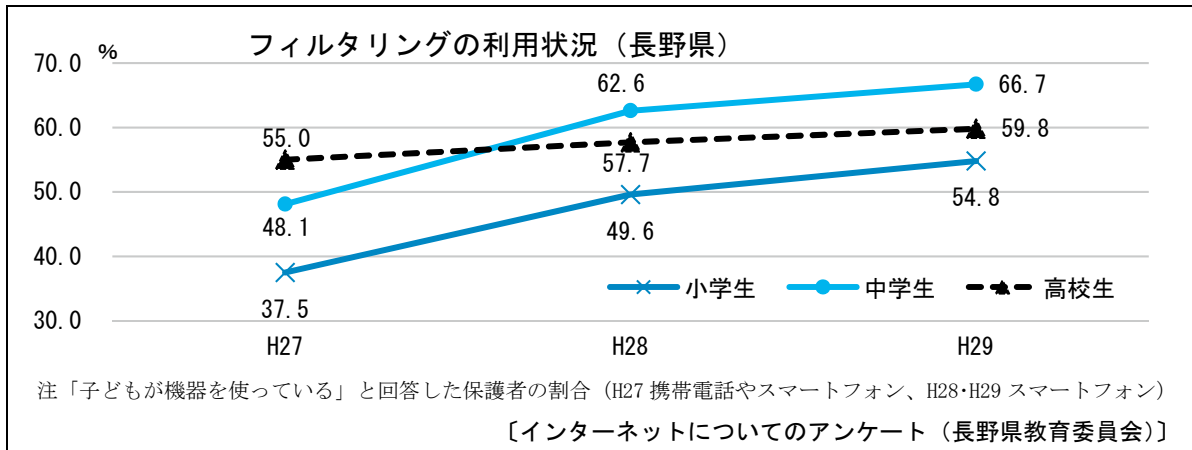


2 インターネット環境（スマートフォン等の所有、ネットの利用、ネットトラブル）

- インターネットにおいて、性・暴力表現等、青少年に有害な情報が流通していることに鑑み、青少年が安全かつ安心してインターネットを利用できるようにするため、平成 21 年（2009 年）4 月から「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」が施行されています。

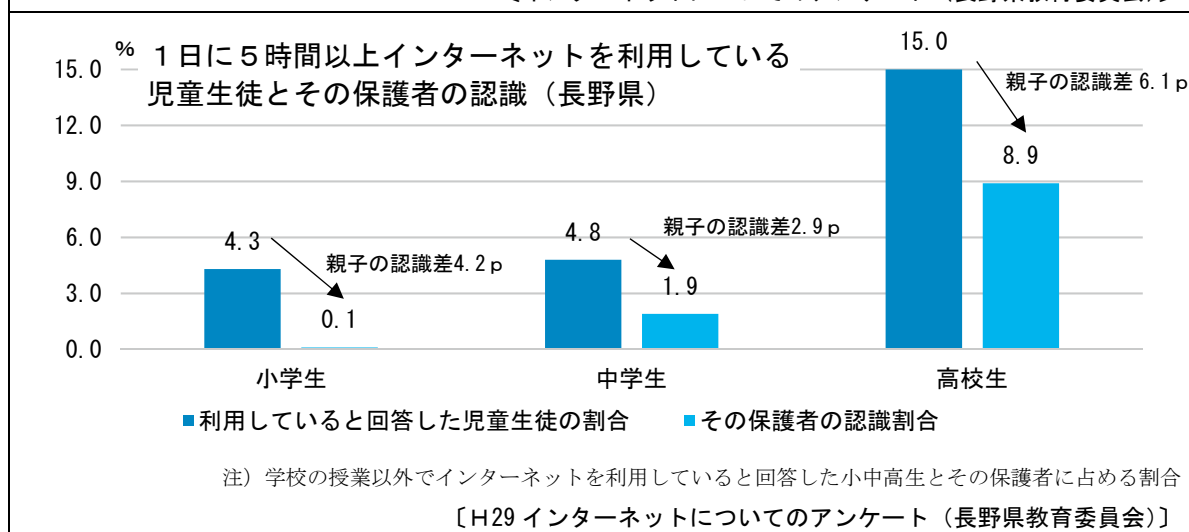
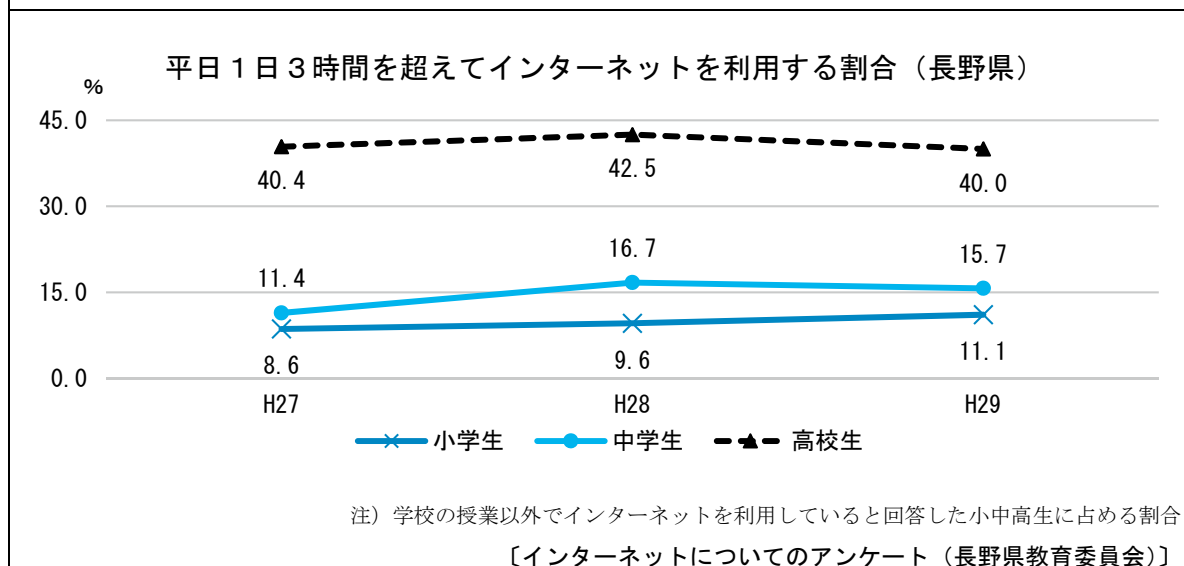
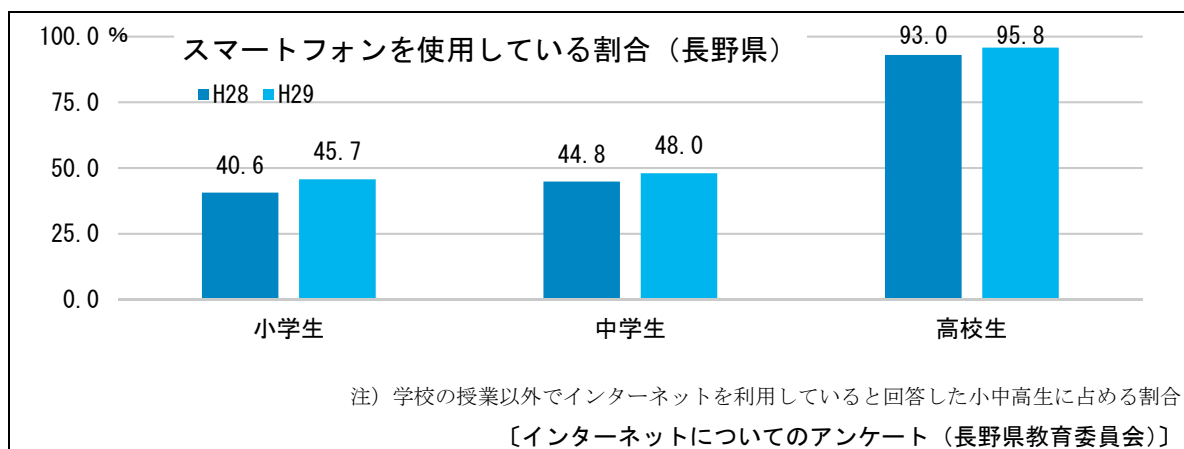
インターネットの適正な利用が課題

- インターネットは、子ども・若者にとって手軽で便利なコミュニケーションの手段となっていますが、適正な利用方法を逸脱した場合、重大なネットトラブルに巻き込まれるおそれもあります。



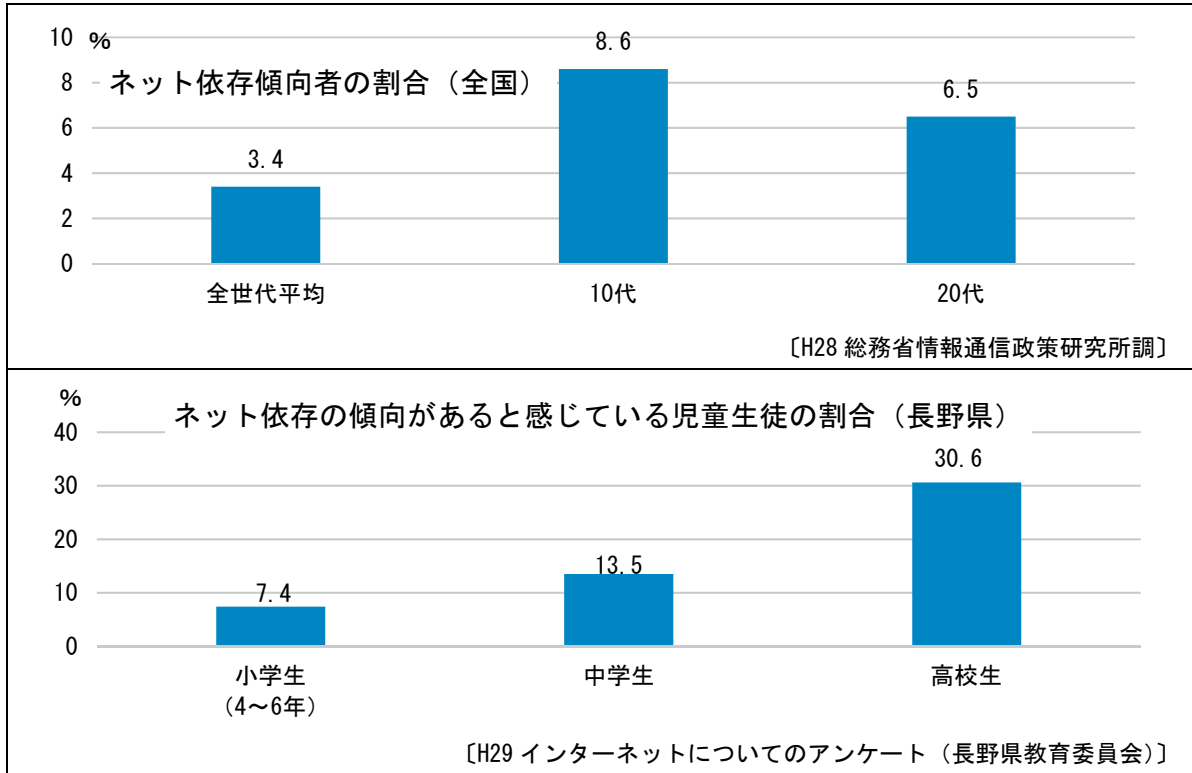
学年が上がるとネットの長時間利用者が増加

- 学年が上がるとともに、インターネットに接続できる機器の使用率が高まるとともに、インターネット利用時間は増加しています。また、子どものインターネット利用時間は保護者が想像する以上に長い傾向があります。



子どものネット依存の傾向が顕著に

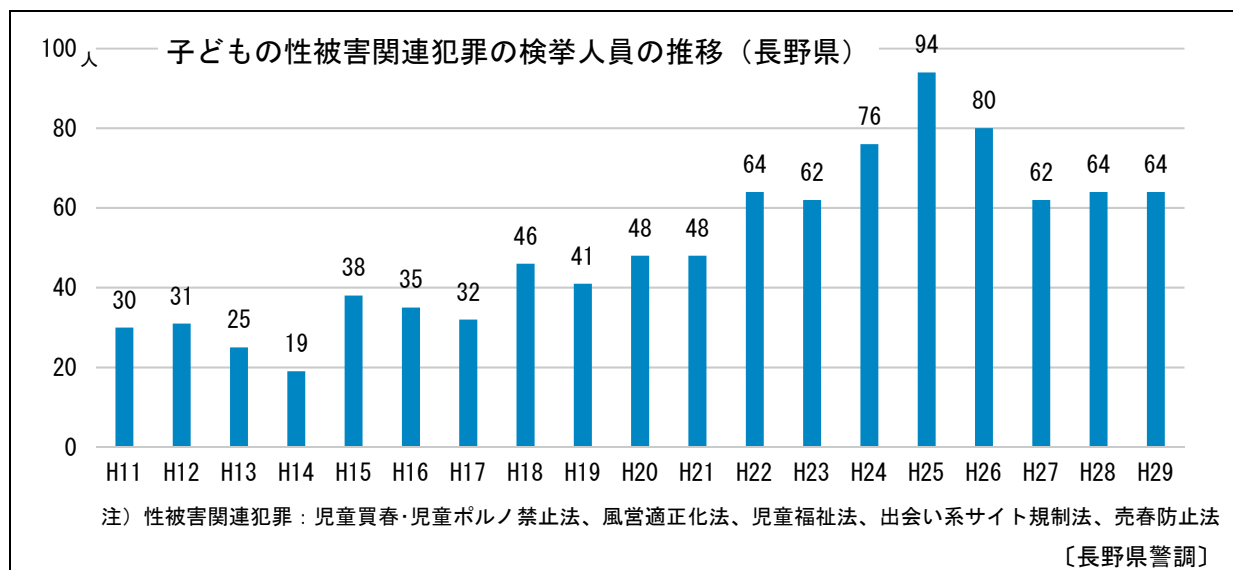
○ 全国的にインターネットの長時間利用による生活のリズムの乱れが見られるなど、10代、20代の若者はネット依存の傾向が高くなっています。また、児童生徒の年齢（学年）が上がるにつれて、ネット依存を認識する傾向があります。



3 子どもの性被害の状況

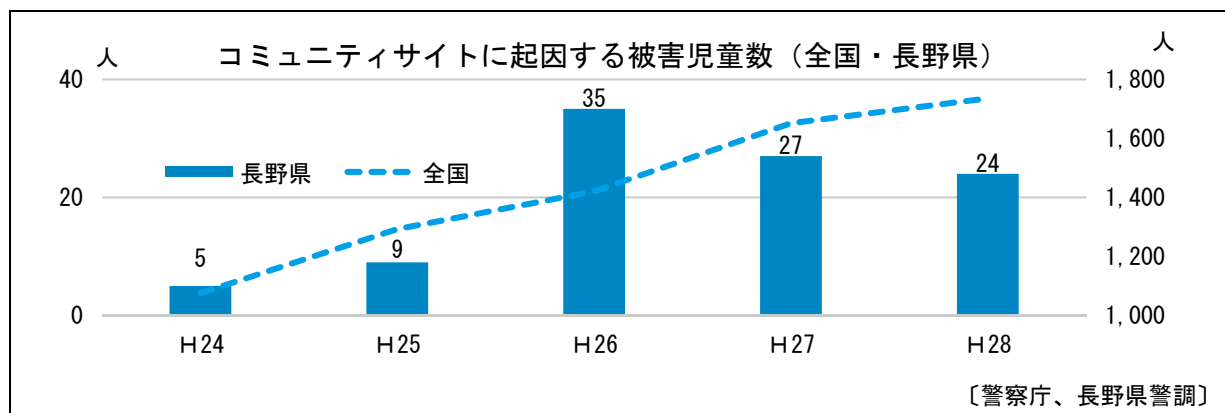
子どもの性被害関連犯罪は近年やや減少傾向

○ 子どもの性被害関連犯罪は、平成 25 年まで増加傾向でした。その後やや減少していますが、平成 22 年以降年間 60 件を上回っています。



コミュニティサイトに起因する被害が平成 26 年度に急増

○ インターネットを介し、子どもが性被害に巻き込まれる事案は、全国的に急増していますが、長野県では平成 26 年度をピークにやや減少しています。



4 若者の社会参加

○ 少子化の進展に伴い、地域の担い手となる若者が減少しています。

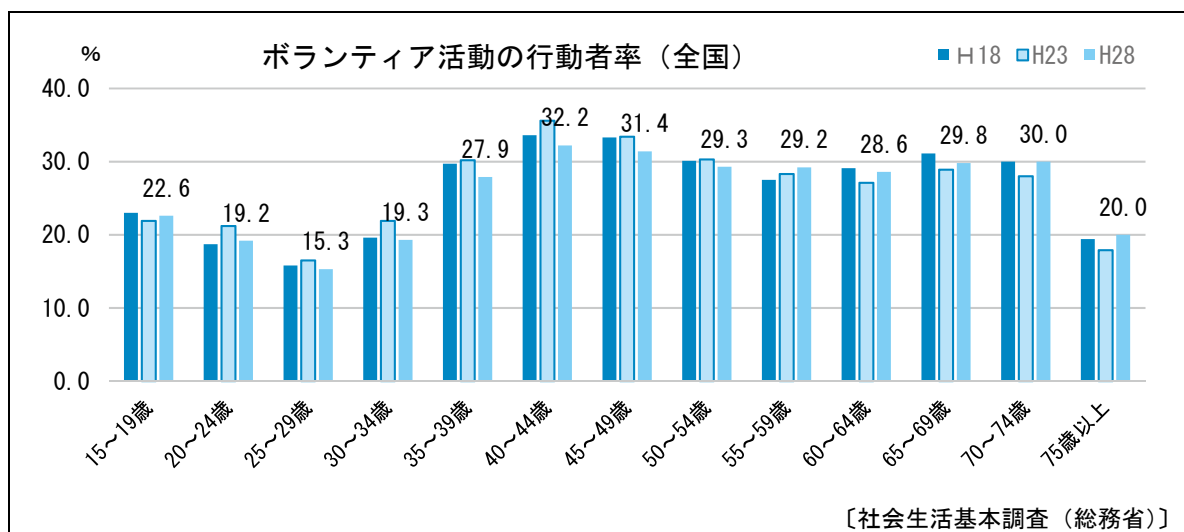
長野県の若者人口の推計

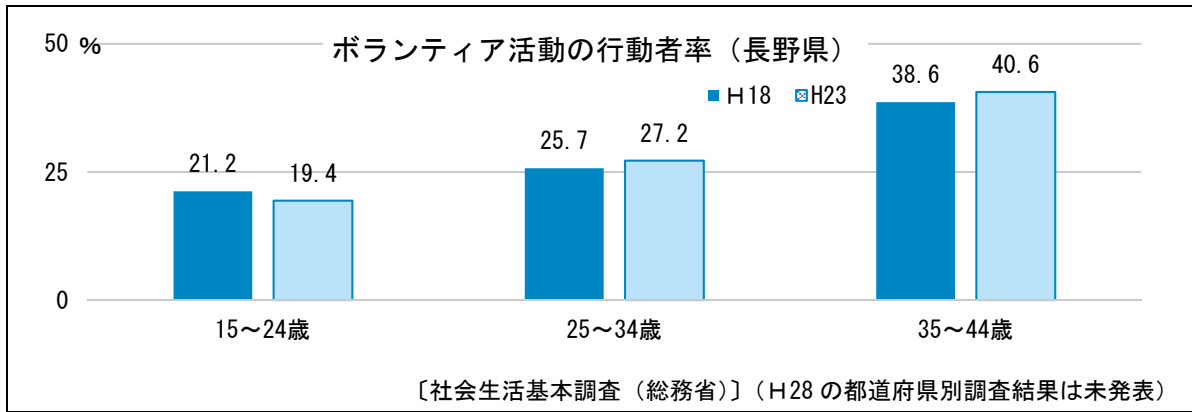
	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
20 歳代	182,404	181,837	168,137	152,965	137,569
30 歳代	192,832	180,403	185,529	184,674	170,848

〔国立社会保障・人口問題研究所推計〕

若者の社会参加は低調

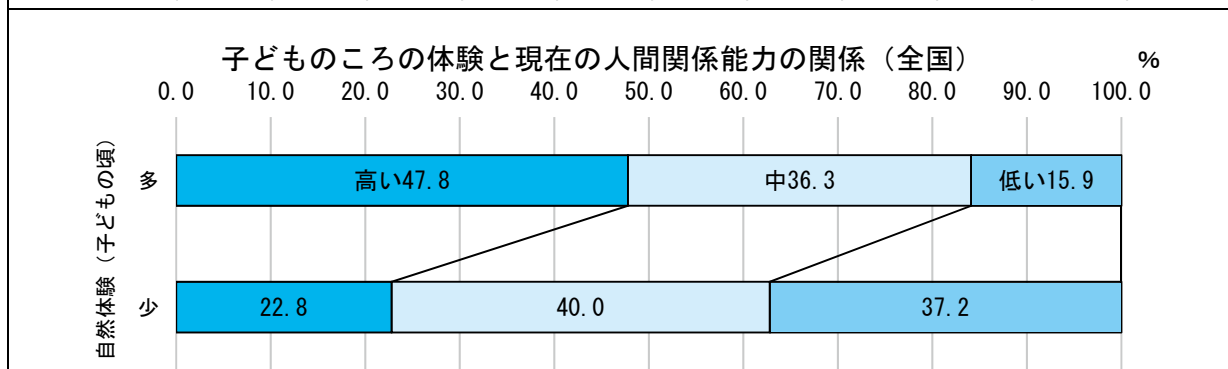
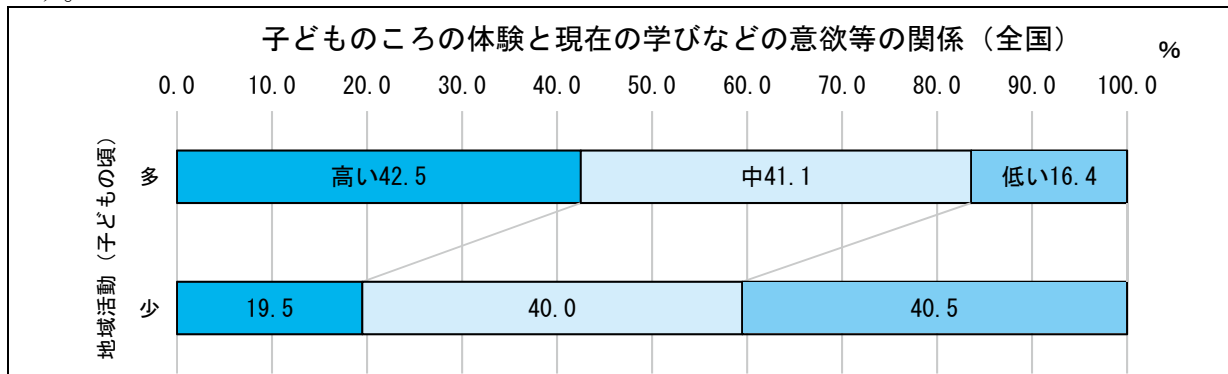
○ ボランティア活動や地域活動など公共的活動に参加する若者の割合は、他の年齢層と比較して全国的に低い状況にあります。長野県では、ボランティア活動に参加する若者の割合が全国平均より高い傾向にあります。





子どものころの多様な体験が将来の学びや人間関係に好影響

○ 子どもの頃に地域活動や自然体験を多く経験した人の方が、大人になってから学びなどの意欲・関心や人間関係能力が高い傾向がありますが、小学生の自然体験活動が減少しています。



注) 「人間関係能力」: 人前で緊張せずに話せる、あいさつができる、友達に相談されることがよくある等
〔子どもの体験活動の実態に関する調査研究（H22年10月）（独立行政法人国立青少年教育振興機構）〕

